

入選

「お母さん、本当にいつもありがとう」

京都府 ノートルダム学院小学校 三年 遠藤 伊吹

ぼくのお母さんは、今の時代にめずらしく五人の子供のお母さんです。

お母さんの一日は、とても急がしくてたいへんです。

毎日、ぼくが起きるより、ずっと早い時間に起きて、家族みんなの朝食の準備をしてくれず。

ぼくが起きる頃には、おみそ汁のいいにおいが台所の方からだだよつてきて、とても安心する様な、ほつと温まる様な、幸せな気持ちでいっぱいになります。

ぼくの家族の中では、どんなに急がしくても、体調が悪くない限り、一日の始まりである朝食は必ずみんないただく事が約束になっています。

毎朝、家族そろって元気に目覚める事ができて、食たくを囲める事に感謝し、今日も十分に力を発揮し、元気一ぱい楽しく、有意義な一日であります様にと、願いながら食べています。

お母さんは、「一年の計は元旦にあり」を引用し、「一日の計は朝食にあり」という位、一日の初まりである朝食はとても大切だと、口ぐせの様に言っています。

朝食を食べ終わると、家族七人それぞれ身支度を整えて、出発します。

お母さんは、銀行に勤めています。ぼくは、何度か、銀行で働いている姿を見た事がありますが、制服をキリッと着て、窓口でお客様と笑顔でお話をしていたり、たくさんのお金をおうぎの様に広げて数えたり、キーボードをすばやくたたいてオペレーションをしている姿は、とてもカッコいいです。家のお母さんと、顔つきが全然違います。

夜は、ぼく達五人と一緒に風呂に入り、それぞれ今日あった出来事を、笑顔で聞いてくれます。

お母さんをふくめ、六人でお風呂はとげもにぎやかで、楽しいです。

お母さんは、お料理も上手で、まほうの様に大変手際良く、さつさと七人分の食事を作っています。ぼく達兄弟妹も野菜の皮をむいたり、玉子を割ったり天ぷらの衣をつけたり、配ぜんのお手伝いをしたりしています。

毎日みんなで、夕食を作るこの時間も、ぼくはとっても楽しいです。

また、お母さんはぼく達がねる前に一さつずつ本を読んでくれます。登場人物に合わせて、声を変えて読んでくれたり、感情をこめて読んでくれるので、聞き入って夢中になってしまい、かえって眠れなくなってしまう事もあります。

ぼくは、こんな素敵なお母さんが大好きです。お母さんの子供として生まれる事の出来たぼくは、幸せです。これからも、五人兄弟妹で力を合わせて、お母さんのお手伝いをしっかりしていきたいです。

お母さん、本当にいつもありがとう。